山弓連
No.4
平1.11.30

塩島（有段）・佐野（称号）が優勝

◇第三回山日YBS杯弓道大会◇

11月19日、県営弓道場で開催。申しこみは一三四名であったが、当日の参加者は、有段者73、称号者23 計96名であった。両種別とも予選四射で二中以上が通過、決勝は射詰めという形で行われ、熱戦の結果、次の通り入賞者がきまった。

◎有段者の部
優勝（三連覇）塩島健二（三珠）
準優勝 坂本武敏（勝沼）
三位 荻原英寿（石和）
四位 古屋浩元（若草）
五位 荒井紀孝（吉田）

◎称号者の部
優勝（初）佐野 忍（南部）
準優勝 標 興次（春日居）
三位 深沢 晃（増穂）

有段者の部 塩島選手は、前年に引き続き三連覇。予選四射、決勝射詰四射を皆中して栄冠を得た。（前年の十射皆中から数えると 本大会 十八射皆中となる。） 若手が擡頭して、三位・五位に入賞したことも今回の特徴。息づまるような緊張感の中で、ベテランと競りあって勝ちあがることは容易なことではなく、その気力、精神力をたたえたい。

なお、予選四射皆中で安定した射を見せていた中込実、望月勝男、前田昭の三選手が、それぞれ射詰め三回目、一回目、二回目に的中を逸して入賞を逃したのは惜しかった。射詰競射の難しさ、こわさ（たった一度の失敗も許されぬ）を見た思いだった。しかし、また、こういう緊張感の中で確実な的中を求めていく強さをも、この大会で学んでほしいと思った。

称号者の部は、予選通過十三人だったが射詰三回目であっさり佐野選手の初優勝がきまった。前年の優勝決定は、有段が射詰六本目、称号は五本目だったのに比べ、今年はやや味が薄い感があった。試合経過は次の通り。

称号	有段	種別	
23	73	参加者	
13	31	予選通過	
7	13	決勝射詰	1回目○
5	8		2回目○
1	3		3回目○
	1		4回目○

殊勲 入賞三名

関東高校個人選抜大会

十月十九日東京で行われた標記大会には、本県からも県予選を勝ち抜いた精鋭選手が多数出場し、関東各県の選手と腕を競ったが、熱戦につぐ熱戦の結果、次の通り三名入賞という殊勲の星をあげた。

男子 四位 桜井泰邦（園芸高）
女子 優勝 後藤香吹（吉田高）
〃 六位 笠井千絵（巨摩高）

全国的にみてもレベルの高い関東高校大会で入賞することは、全国大会での上位入賞も期待できる実力ということが出来るので、これらの選手の今後が楽しみ。

オトナも頑張る

日弓連40周年大会で健斗

全日弓連結成40周年記念事業の一つとして行われた「地連対抗戦」は十月十五日、東京・日本武道館が会場。本県からは中沢会長を主将に以下河西伊三男・不動田光照・宮下貞雄・石川美穂の五選手が代表として出場した。予選は全国五四地連の名誉をかけた激突となったが、本県勢は十分に日頃の実力を出しきり、みごとに上位十六チームの予選通過ラインを突破して決勝トーナメントに進出した。一つ勝てばベスト8という願ってもないチャンスだったが、一回戦の相手が強敵東京第一地連というクジを引いて万事窮す。惜敗して上位入賞は成らなかった。しかしここまでいけば健斗というべきか。

ぶどう祭り 勝沼弓道大会

十月八日 参加者百四十人という大盛況。県外からも、八王子、富士宮などの弓友も多数参加。おかげで地元会員は競技には出られず、もっぱら競技運営と接待に大忙し。

成績は次の通り。
団体 一位 富士吉田チーム
〃 二位 韮崎・高根連合チーム
〃 三位 富宮浅間チーム
個人 一位 小宮山庄肯（一宮）
〃 二位 井上貴文（吉田）
〃 三位 蔵田源道（山梨）

山弓連の歴史を創ってきた人々（連載No.6）

曽根利重氏（77才）

錬士五段。錬士認許は昭和37年で、当時の山梨には称号受有者は数名しかいなかった。勿論、戦前からの弓士で、山梨師範学校在学中に、自ら弓道部をつくり、仲間を募って練習に励み、関東学生大会等で、優勝、準優勝するなど大活躍した。

戦後の山弓連結成には、いちはやく参加し、十年余にわたって理事長を勤めるなど、いつもその先頭に立って活躍し、今日の弓連隆盛の礎を築いた。

理事長時代に、現在の緑が丘県営弓道場建設したのも功績のひとつ。今でこそ、稍々古くて狭い弓道場になったが、当時は「近在にはない十人立の大道場」として山梨の誇りであったもの。

師範弓道部・山弓連・県営弓道場と、新しいものを創るとき、新しい時代を拓く時は、いつもそこに、氏の姿、氏の活躍があったのであり、どんな時でもいつも全力投球をしてきた氏の人生の一端が、そこにうかがえる。

教師時代における教育への情熱と活躍も、知る人ぞ知る。青年教師時代「境川教育」といわれて県下に鳴りひびいた実践の推進者の人であり、また県教育委員教職員課長として教育行政に敏腕をふるったことも、つとに有名。

最近、身体の不調のため家の中に閉じこもる時が多いと聞くが、しかし時には庭に立った梁に向って弦音を響かす日も有る由。願わくは御自身の弦音ひびく日の多からんことを。

秋季第一回審査（査定）

十一月十二日に実施した査定審査会は、受審者三六七名という多人数。これは主として高校弓道部の発展によるものだが、関係者は、うれしいやら、せつないやら複雑な気もち。今後四百名を越えるような事態になったら、運営方法を変えねばならないかも知れない。

審査の結果は 初段四十二名。他は一級〜二級であった。

審査会場でいろいろな出来事があった。二、三紹介。

○射位で弓を立てようとしたら弦をつけていなかった。自分でもびっくりして慌てて控室にすっ飛んで行った。余程アガっていたかな。

○入場の執弓の形が少しヘンだと思ったら、弓の上下を逆さに持っていた。（三級……弓矢の取扱い稍々整い……）が出来ていないのではないかとは、審査席のささやき。

○受付の係員に「学科試験というのは、どういうことをするのですか？」と質問する高校生がいた。学科試験があることを知らなかったらしい。いい度胸。

○審査請求書の提出が相変らず遅くて困る。事務処理の許される限り待つようにしてはいるが、あまりギリギリに持ってこられても、処理不能となる。是非しめきりを守るようにしてほしい。

○最近急成長を遂げている勝沼から、七人が受審。弓道教室を続けて開催している効果がここにもあらわれている。急成長も理由なしとしない。他支部もおおいに見習う必要がありそう。

訃報

小泉柳吉氏（錬士五段・富士吉田市上吉田）が逝去されました。八八才。富士吉田支部、吉田竜々弓道部の育ての親。去年までは元気に弓を引いていたと聞いていましたが。謹んでご冥福をお祈りします。

なお小泉氏は、永年にわたる指導歴に対して今回の日弓連40周年式典で表彰を受けたのですが、表彰状が届いた時は病床にあって、その時のようすを御子息の喜男氏（山弓連富士吉田支部長）から次のように知らせていただきました。

> ……父は今春以来とみに健康がすぐれず、入退院の繰り返しで、記憶もはっきりしない今日この頃でしたが、表彰状を見せ、読んであげたところ、この時だけは記憶も定まり、涙を流して喜びました。そして、以前にいただいた県体育功労表彰よりも、今日の連盟の表彰の方が嬉しいと申しておりました。ありがとうございました……（後略）

こうして表彰状をお届けしてから半月後におなくなりになりました。

事務局から

○今年の中央審査合格者七名。まずまずの成果でした。

○日弓連表彰六名。おめでとうございます。

○県体協表彰は、体育功労一名、特別功労一名、優秀選手賞一名。

○納射会では、右の方々の祝賀射会をおこないます。

○県体協体育功労表彰を受けられた塚越朝太郎氏から、連盟基金に金壱封のご寄付をいただきました。ありがとうございました。

○弓道誌の読者は逐時増加しています。なお、身近な人にすすめて下さい。現在の読者の方も前金切れの時期を忘れないように気をつけて、継続するようお願いします。

○寒さに向う折柄、皆様ご自愛の程を。